

経営方針と対処すべき課題（有価証券報告書より）

① 目指す姿と数値目標

ミッション

スモールビジネスを、世界の主役に。だれもが自由に経営できる統合型経営プラットフォームを提供。

TAM（会計・人事労
1.6兆円

TAM（ERP全体）
3.6兆円

調整後FCFマージン
15%以上

月次平均解約率
1.1%

② 中長期の経営戦略

1. ユーザー基盤の拡大

2025年6月期末有料課金ユーザー企業数606,533件から継続的に拡大。個人事業主・Small・Midの3領域に対応。

3. トランザクションデータ活用

freee会計による個々の取引情報の蓄積、freee人事労務の人事労務定型業務情報一元化で、プラットフォーム価値を強化。

2. サービスモジュール拡充

統合型ERP化を推進。freee販売・freeeサイン・freee業務委託管理等を展開し、バックオフィス全体効率化を実現。

4. 安定的な収益構造

サブスクリプション売上高比率90%超。長期的な顧客生涯価値（LTV）最大化に投資。

③ 対処すべき課題

① 日本の人口減少への対応

- ・生産年齢人口減少に対し、テクノロジーでスモールビジネスの生産性向上を実現。
- ・働き方改革・最低賃金上昇への対応で労働生産性向上を支援。

② クラウド浸透率の向上

- ・国内の会計ソフト48.4%・人事労務ソフト66.7%のクラウド化率を向上させるポテンシャルあり。
- ・欧米（米国財務64.1%・人事労務85.6%）との比較で浸透余地あり。

③ 企業文化による組織力強化

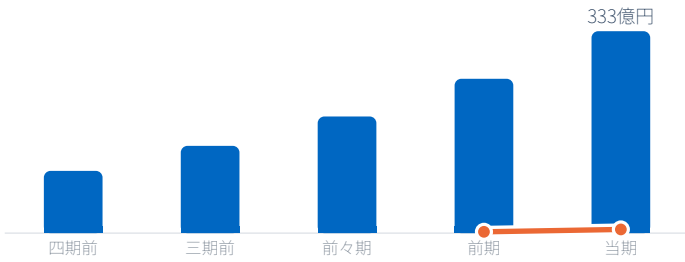
- ・マジ価値2原則と5つのマジ価値指針で、社会進化への責任感とムーブメント型チーム構築。
- ・全日出社原則で高スピードな事業推進と強い一体感を実現。

面接で使えるポイント

- ・国内中小企業99.7%が対象であり、TAM1.6兆円の会計・人事労務市場で月次平均解約率1.1%の低さを実現。
- ・スモールビジネス向けクラウドERP市場のTAMが3.6兆円へ拡大する成長機会を狙う戦略性。
- ・2028年6月期調整後FCFマージン15%以上達成と売上成長率の合計40%で、持続的成長と収益性を両立する野心的目標。

証券コード 4478

業績の推移（売上＝棒 / 営業利益＝線）



※営業利益は直近2期のみ開示（有報の様式変更による）

要するに

個人事業主および従業員1,000名以下の法人を対象とした統合型経営プラットフォーム

主力事業・セグメント

・ 情報・通信業（セグメント未開示）

強み・特徴（公開データから）

・ 将来性評価は晴れ時々曇り

※要約はAI生成のため誤りを含む可能性があります

暗記する数字3つ

連結売上高
333億円営業利益率
1.8%財務健康度
28点 / 100点

将来性 晴れ時々曇り / 就活偏差値 53.7（当サイト算出の参考指標）

平均年収
688万円

情報・通信業内 228位/592社

平均年齢
33.1歳

情報・通信業内 546位/593社

平均勤続
2.2年

情報・通信業内 578位/593社

女性管理職
18.9%

情報・通信業内 119位/373社

男性育休
88.9%

情報・通信業内 136位/297社

※平均年収は提出会社単体・有価証券報告書ベース。順位は同33業種内の掲載企業での比較。

ここから下は自分で書く（面接で話すこと）

志望動機の核

上の数字・事業と接続して書く

自分の経験との接点

逆質問メモ

※1つはデータ起点で（例：勤続年数が長い要因は…）

直近ニュース十一言

参考: フリー(株)【4478】：決算情報

